



Shanti 通信 (No.24)

By RIE YOSHIOKA

2018年4月15日(日)、丸岡教室において、サットサンガが行われました。

今回は、丸岡先生が翻訳されたシャンカラチャリアの【Tattva Bodha: 真実の知識】の本を中心にお話をされました。また、リシケシでアシュラムを運営なさっているキルタンの名手、川崎あき子さんが日本に滞在中でしたので、嬉しいことにキルタンの指導もしていただきました。

マキ先生のお話

今週、4月20日は、くしくもタットワ・ボーダを記したシャンカラチャリアの誕生日です。ヒンドゥー暦のヴァイシャーク月(4~5月)の新月から満月に向かう5日目をアーディ・シャンカラ・ジャヤンティと呼び、祝います。

シャンカラチャリアが言われる『3つの幸運』

- ① 人間として生を受ける
- ② 人間の苦しみから解放されたいと願うこと(ムムクシュトヴァ)
- ③ グルを持つ、一緒に歩む仲間を持つこと

また、18日は**アクシャ・トリティア(不滅の新月から3日目)**と呼ばれるヒンドゥー暦の**大吉日: 1年で最も太陽と月の光が強くなる日で、善いことを始めるのに最適な日**です。アクシャ・トリティアはトレーター・ユガ(悪が世界の1/4を支配する時代)の開始日とされ、ヴィシュヌ神の6番目の化身であるパラシュラマの誕生日でもあります。

インド哲学においては、世界が創造され、やがて破壊を迎えるまでを4つの時代に分け、この時代区分をユガと呼びます。(神様の暦での1年は人間の暦の360年とも言われます)

- * サツティア・ユガ...平和で万物が調和、全てが善の時代
- * トレーター・ユガ...→1/4が悪になる:人間の善や知力、肉体は徐々に低下してゆく。
- * ドヴァーパラ・ユガ...→2/4つまり半分が悪、半分が善の時代
- * カリ・ユガ...現在...→3/4、ほとんどが悪の時代:精神より物質が優勢となり、人は内なる神性を忘れ、幸せを外に求めて躍起になる時代

翌日、マキ先生のヨガクラスで、ほとんどが悪のカリ・ユガの現在にも救われる方法があるとお聞きしたので補足します。

- * キルタンやマントラを唱えて、自分の中のバイブレーションを神様にすぐ繋がれるようにしておくこと。
- * 良い仲間・集団の力を使うこと。

不浄なものの方が多い時代に、自分一人では障害が多過ぎます。そこで、良い集団に身を置き、調和し、パワーを得ます。良い仲間とまとめればパワーが強力になります。ですから、カリ・ユガ時代における霊的成長のためには、このようにグループで集まってサットサンガでエネルギーを高め合うことが最適で最良とされます。

丸岡先生のお話

シャンカラチャリアの【Tattva Bodha: 真実の知識】のお話

(◎4月から第1土曜日の3時から5時に勉強会を始めています。)

【Tattva Bodha: 真実の知識の要約】

誰も人生のどこかで抱く基本的な疑問、「なぜ、こんなことが私に起こるの?」「私はいったい何者?」「神はいるの?」「人生の目的は?」「死んだらどうなるの?」等々。ヴェーダンタの世界観はこれらの疑問に的確に答えています。スワミ・テジヨマヤナンダ師がわかりやすく解説されています。

このタットワ・ボーダには、ヨガ哲学・ヴェーダンタ哲学の全貌が書かれています。

しかし、ヨガ哲学・ヴェーダンタ哲学は、とても複雑で難しいです。理解するには、覚悟と勉強が必要です。

読み進めていくうちに、「解放される、悟りを開くということを本当に追い求めているのか?」という厳しい設問がありますが、その設問に対してクリアできない人は、そこから先は、読まなくてよいと書かれています。そこから先を読み進めても、その人にとっては、無駄な時間になります。本当に解放を追い求めているのでない限り、これは無駄になります。最初からそのことが書かれています。

全編を通じて、何が書いてあるのか?



ひとことで言うと、『私は誰か?』『私は何者か?』それが書いてあります。

自分自身をどのようにとらえていますか?

自分が一体何なのか、誰なのか、改めて聞かれるとほとんどの方が答えに窮するでしょう。どう答えていいかわからないのです。

自分というものは、常に存在しています。自分の存在を疑っている人はいません。

しかし、日常で使っている自分の身体や心を指して『私』と言っている場合の『私』と、ヴェーダンタ哲学で言う真実の『私』が混同してしまい、錯覚や誤解に陥っているのです。

タットワというのは: 真実ということです。

ここに集まっている皆さんは、色々と勉強されているので、身体は自分ではないということは教わっています。身体は私ではない。ここにいるほとんどの人は、そのことを以前から聞いて知っています。

では、その知識は、日常生活の中で活かされていますか?

わかっているということは、どういうことなのでしょうか??

「知識としてなら知っています。」というのは、本当にわかっているとは言えないのです。少なくともヨガの世界では、それは知っているというだけの話であり、それが身について自分のものになっているとは言いません。これは、とても大事なことです。

昨年、シヴァナンダ・アシュラムに行き、ビマーラナンダジ総長にお話を聞いているときに、ある人が「スワミジ、あなたは病気をなさっていたのですよね。治られたのですか?」と尋ねられました。ビマーラナンダジは「いいえ、私は病気ではありません。私の身体が病気でした。」と言われました。

このように厳密にとらえてほしいのです。自動的にそのように思えるようになったときに、初めて「私と私の身体は別の存在です。」ということが理解できたということです。

正しく自分を把握しなさい。それが真実です。この本には、それが書いてあります。

そして本当の自分を本当の意味で認識できて確信することができたら、完全なる解放が訪れます。

たったそれだけのことしか書いてありません。本当の自分こそが真実の存在である。それがブラフマンなのです。

タットワ・ボーダの教えは、その通りになった瞬間に全ての問題が自動的に解消されます。どのように改善するか考える必要はないのです。その教え(知識・知恵)を学び、日々の生活で実践し、確信した瞬間に、すべての問題は消えてなくなります。



終わりに.

丸岡先生が私たちの勉強のためにと、【Tattva Bodha: 真実の知識】を日本語に翻訳してくださいました。日本語しかできない私には、ヴェーダンタを学ぶ上で大きな壁があると感じていました。言葉の壁です。サンスクリット語を英語にし、それからさらに日本語に訳していただかないと理解できません。その中には、どうもしっくりこない日本語訳も多く、混乱のもとになっています。

この度、丸岡先生がこの本を作ってくださいましたことで、その混乱が少しずつ解消されるのではないかと、毎月第1土曜日は広島からラインでの参加を楽しみにしています。

今回のサットサンガでは、【Tattva Bodha: 真実の知識】のあらすじやどのようなことが書かれているのかを丁寧に説明してくださいました。

『ヨガの哲学・ヴェーダンタ哲学』・哲学という文字を見るだけで、ややこしいのだろうと考えておりましたが、どうやら理解が進むと真実はシンプルで、真の幸福が何なのかを気付かせてくれる人生の道標なのかもしれないと受け取りました。きっと真実への道は、簡単ではなく、険しい道になるのですが、マキ先生のお話にもあったように、学びの場には、信頼のできるグルがおられ、そして何より心強いことに、ともに同じ方向を向いた仲間がたくさんいます。「ほとんどが悪の時代です。」と聞いたときには、悲しい気持ちになりましたが、みんなの力で立ち向えることもわかりました。

身近にキルタンの名手の川崎あきこさんや矢尾さんもおられます。

安心して、学べる場があります。このことは、本当に心から感謝申し上げたいです。

いつも本当にありがとうございます。

今回は、サットサンガ報告が大変遅くなり申し訳ありませんでした。そして、最後まで目を通していただき、ありがとうございました。

広島より愛をこめて ♥ 吉岡 利恵



広島県 尾道



広島県 音戸の瀬戸